

武 田 正 樹 議員



高台のない本市は、人工的な避難所が必要ではないか

問

防災対策について聞く。

- (1) 市は周囲を堤防に囲まれており、防災上、堤防は大変重要である。
- 防潮堤、海岸堤防が地盤沈下や老朽化により機能低下していないか。
- (2) 防潮堤は何mの津波まで機能するのか。
- (3) 市は高台がなく、地理的に安全な場所まで避難するのに時間がかかり、人工的な避難所が必要である。
- 1 集落に1カ所、避難所設置を検討できないか。
- (4) 地域防災計画に、避難所誘導標識の整備を推進するところがあるが、現在の取り組みはどうか。
- (5) 自主防災組織で、実際の避難路を使った訓練を取り組む予定はあるか。
- (6) 災害時の情報伝達方法

にどう取り組んでいるか。

- (7) 液状化対策に具体的なものがあるか。
- (8) 排水機場、水閘門の現状はどうか。

今後の公共施設に防災機能を付加

答 防災安全課長

- (1) 国は調査費を、高潮防波堤に1億2千万円、GPS波浪計に3千万円予算化した。今後も早期着工に向けて要望していく。
- 鍋田堤は24年度、約200mの整備を行い、液状化対策も含め、順次整備が進んでいると聞いている。
- (2) 暫定値だが、弥富ふ頭は2.3mの津波予想が出ている。防潮堤、防波堤等が5.3から6.3mで、3mほど余裕

裕のある形になっている。

- (3) 市全体で不足しており、今後も確保に努力していくが、財政面等非常に難しい。

今後建設される

公共施設に、防災機能を持たせることが必要だと考えている。

- (4) 24年度、100カ所を予定している。
- (5) 24年度、自主防災会を対象に、

避難訓練等、研修を開催しなければならぬと思うている。

- (6) 同報無線、エリアメール、テレビ、ラジオ以外に、海部地方の自治体でミニFMの導入が検討され、秋に運用開始の予定になっている。
- (7) 建物が建っている場合の対応は、非常に難しい。

地盤改良やいろいろな対策があるので、家を建てる

◀ 建て替えられた
新孫宝排水機場 四郎兵衛地内



場合、専門家に聞き検討してほしい。

答 防災安全課長

- (8) 排水機場が8機場、水門3カ所、樋門が6カ所ある。

鍋田南部、大神場および孫宝排水機場は更新等を行っており、稲元排水機場は27年度の完成を目指し、整備を進めている。